

第4章 地域経済循環マップ

自治体の生産・分配・支出におけるお金の流入・流出の把握が可能。複数の自治体の比較が容易にできる。

第5章 産業構造マップ

地域の製造業、卸売・小売業、農林水産業の構造の把握が可能である。自治体の推移やほかの自治体との関連性も一目で把握することができる。

第6章 データ分析支援機能（外国人観光客）

どの国からの観光客が多いか、使用空港の状況はどうかなど、現状を把握した上で、今後の観光戦略を立てることができる。2025年の大阪万博や大阪IR基本構想にも活用が期待できる。

第7章 V-RESAS

新型コロナウイルス感染症が地域経済に与える影響を可視化、地方公共団体の政策立案や金融機関や商工団体の中小企業支援をサポートする。令和2年6月運用開始。1週間おきにデータを更新、速報性を重視している。JCB やびあからのデータも提供され、決済データから見る消費の動向等も把握することができる。

第8章 活用事例

自治体における RESAS の活用事例について

まちづくりマップや観光マップなど活用範囲は広い。観光客の分類の同月比の推移を RESAS で確認することにより、店主が肌感覚で把握していた傾向を数字の上からも追確認することができた。RESAS を活用することにより、ひとが持っていた、なんとなくあったイメージを可視化し、共有できることがよくわかった。データの蓄積不足とか、施策のスピードの遅さなど、いくつかの「壁」があるようだが、使いこなせば様々な現象の調査に役立つツールであることは間違いない。

さいごに

なかなかこのような研修を受ける機会がない受講者にとって、RESAS は、まさに目からうろこでもいべきツールでした。これから調査を始めるに当たり、一人一人にとって本当に勉強になりました。大変有意義な時間を過ごさせていただきましたこと、改めて厚く御礼申し上げます。